

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部文化学科
学年(出発時)	3
大学名	セントラルランカシャー大学
国	英国
留学期間	2019年9月10日～2020年1月16日(授業は9月23日～12月13日)
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	昼食
13:00	
14:00	授業
15:00	
16:00	図書館で自習
17:00	
18:00	サークル活動など
19:00	
20:00	夕食
21:00	
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Study Overseas Programme	15時間		英語	大学で必要となる4技能の英語学習
Making of Britain	2時間		英語	1688年から1815年のイギリスの歴史

大学のサポート	
チューターの有無	なし
チューターのサポート内容	なし
語学コースの有無	
コース名、料金、期間等	

生活	
住居のタイプ	学生寮
住居の名前	Ribble hall
部屋タイプ	個室
ルームメイト(国籍)	イギリス、アメリカ、日本
室内設備	独立洗面台、学習机、タンス、ベッド
共用施設	バス、トイレ、キッチン
インターネット設備	有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩5分ほど
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	Short term study visa (up to 6 months)
Visa申請先	マンチェスター空港
Visa取得にかかった日数	1週間
Visa取得にかかった費用	約5000円
Visa取得方法、提出書類等	6か月以内の留学の場合はイギリスに入国する際に空港での取得が可能。必要書類はパスポート、入学許可証、滞在費用証明(親名義でも可だがスポンサーレターと戸籍謄本原本およびその翻訳が必要)など。他のビザ同様に日本にいる間に取得することも可能。
留学先大学の最寄り空港までの経路	鉄道
渡航費用	約15万円
ピックアップサービスの有無	有

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	無
有る場合、その理由	
就職活動開始時期	翌年度
帰国後の進路	未定

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ポンド130円→145円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	約7万円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	0円
宿舍費(月額)	約270ポンド＝35000円(2019年8月にまとめて支払い)
光熱費(月額)	宿舍費に含まれる
食費(月額)	約2万円
その他	
留学期間中にかかった費用の合計	約50万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

私は人文学部文化学科のヨーロッパ・地中海コースに所属しており、語学力の向上とイギリスでの生活を体験することをテーマとして交換留学に応募することを決めた。4年で大学を卒業したいと考えていたため1年間ではなく3年生後期の期間のみでの留学を選択した。渡英直後は想像以上に英語の聞き取りができず授業、私生活ともに非常に苦労した。大学の授業はエッセイやプレゼンテーションなど将来大学などで英語で学習するために必要な技能を学ぶ目的のカリキュラムとなっており有用であったと思うが、クラスメイトが日本人と中国人のみであったため、現地の学生と交流する機会を自身で設ける必要があると感じた。そのため私は日本語クラスのアシスタント、日本語を学ぶ学生とのランゲージエクステンジ、サークル活動などに取り組んだ。とりわけサークル活動は私にとって非常によい経験となった。イギリスでは日本におけるサークルにあたるものがSocietyと呼ばれている。セントラルランカシャー大学には日本人留学生や日本語を学ぶ学生が中心となって作られた将棋のサークルがあり、将棋は私の趣味であったためその指し方を教えることになった。英語でルールや戦略などを説明することは非常に難しく感じたが、イギリスの学生が将棋に興味を持ってくれたということが何より嬉しく、また自身の英語学習にも非常に役に立った。休日やコース終了後には寮を拠点にイングランド北部の近場の街を中心に様々な場所を旅行した。帰国直前にはLCCを利用してイタリアへの旅行にも挑戦した。日常生活もそうだが日本語が通じない環境で行動するという経験自体が留学の一つのメリットであると思う。肝心の語学力については、やはり5か月という期間は長いようで短く、ようやく手ごたえをつかみ始めたというタイミングでの帰国となってしまった。とはいえ留学前と比較すれば少しずつだが進歩しているという実感を得ることができ総合的に見れば充実した留学であった。

今後留学する人へのアドバイス

初めに留学中の授業以外における英語学習について述べる。セントラルランカシャー大学のStudy Overseas Programmeは15人程度のクラスを1人の、曜日ごとに決められたネイティブの講師が指導するという形式で行われる。クラスメイトの大多数は日本人か中国人であり私のクラスにはその他の国の学生はいなかった。そのため英会話の能力を伸ばすには授業外で英語を話す機会をなるべく作る必要があると思う。そこでお勧めしたいのがランゲージエクスチェンジである。ランゲージエクスチェンジとは、違う言語を母国語とする人同士で互いの言語学習を助け合うことである。セントラルランカシャー大学には日本語を学ぶ学生が数多く在籍しているため言語学習のパートナーを見つけることができるだろう。私の場合はJapanese societyという日本に関心のある学生と日本人留学生が交流することを目的としたサークルで出会った友人とランゲージエクスチェンジを行っていた。コースの課題の中には1000語を超える単語数のエッセイやプレゼンテーションなど難しいと感じる課題もあったので、困ったときに相談できる友人がいたことは非常に心強かった。他では日本語コースのアシスタントやSocietyへの参加も現地の学生と知り合う貴重な機会である。ランゲージエクスチェンジをしなくとも現地の学生と交流することは留学生生活を充実したものとするために必要なことであると思うので参考にしてほしい。次に日常生活について述べる。大学の寮に就いた直後は部屋にはベッドや机などがあるのみで布団も何もない状態であった。9月でも夜は冷えるのであるべく寮についたその日のうちに布団をそろえることを勧めたい。街の博物館の近くにあるWilkoや駅の近くにあるPrimarkなどで安く購入できる。物価については総合的には日本よりやや高いという印象であるが、生鮮食品はものによっては日本より安く、大学付近には安価な飲食店もあるため工夫次第で生活費は抑えられるだろう。最後にShort term study visa (up to 6 months)について述べる。このvisaは半年以内の留学の場合、現地空港で取得でき入国後に在留許可証の取得が不要であるなど非常に便利であるがいくつか注意点がある。第一に入国の際に自動化ゲートを利用してはならない。もし自動化ゲートで入国した場合は観光ビザで入国した扱いとなるため、学生visaの取得のために一度イギリス外に出る必要が生じるため注意が必要である。第2にこのvisaはイギリスから出国した瞬間に失効してしまう。そのためイギリス国外を旅行した後に再入国をする際には空港で再度visaを取得する必要がある。その際に初回の入国時と同様の書類を用意する必要があるため、もしこのvisaで留学する場合、再入国の際には十分に気を付けてほしい。

報告書記入日